

第1回一関清明支援学校「公開講座」報告

平成29年度第1回一関清明支援学校「公開講座」を8月4日（金）に本校舎で行いました。外部から1名、本校職員12名、計13名の参加でした。

当日は、「**聴覚障がい児への支援～共通理解を図りながら～**」というテーマで、「きこえについて」「オーディオグラムの読み取り方」「補聴器・人工内耳について」「きこえにくいことで困ること・配慮事項について」「関係機関との連携」など、聴覚障がい児教育における基礎的な内容について、本校職員が講師となり行われました。講義の中では、実際に補聴器を触ってみたい、中等度用と高度用に調整した補聴器の音を聞いたりして聞こえ方を体験する場面もありました。参加者からは、「本校にも聴覚障がい子どもたちはいるが、担当していないとなかなかふれあう機会がないので、貴重な内容を聞いて学ぶことができ良かった。」「耳の仕組みや難聴の種類、補聴器や人工内耳についてなど基本的なところから話を聞くことができ学びとなった。」等の声が聞かれました。



～当日配付資料より～

「きこえる」って？

- 世の中にはいろいろな音があふれており、その音から自然に**情報**(何の音か、音源はどこか、方向や距離 等)を得ている。
- 同時にいくつかの音を聞いて、それぞれをきちんと区別できる。
- **言葉**を話すことと密接な関係がある。

補聴器／人工内耳装用者の苦手な環境

- 1. 距離が遠い**
一般的には2mを超えると、言葉の聞き取りが難しくなる。
- 2. 騒音／反響音がある**
補聴器／人工内耳のマイクロホンが周囲の騒音や反響音まで拾ってしまう。
- 3. 集団での会話**
話し手が多く、あらゆる方向から声が飛び交うグループでの会話は、最も難しい。
(PHONAK 発行冊子より)

難聴の程度ときこえへの影響

難聴の程度	聴力レベル	きこえへの影響
軽度	25～50dB	・声が小さかったり、話し相手が見えない場合に聞こえにくい。 ・騒音下や遠隔での話を聞き逃すことがある。
中等度	50～70dB	・知っている言葉と構文で話せば、1～1.5mの距離で対面した会話は、理解しやすい。 ・補聴器をつけないと聞き取りづらいことが多い。
高度	70～90dB	・補聴器をつけないと、耳から30cmくらいの距離の大きな声がやっと聞こえる。 ・補聴器を最適に調整できれば、会話音の聞き取りも可能になる。
重度	91dB～	・補聴器の力で、韻律情報や母音の聞き取りが期待できる。 ・口の動き、手指サイン、絵、書き言葉など、視覚情報が有効になる場面が増える。

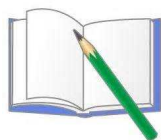
※分類の仕方は、他にもいろいろあり。

配慮すべき事項

- 教師等の指導上の配慮
 - ・聴覚障がいの状態に合わせた、コミュニケーション手段の選択と活用。
 - ・視覚的教材、板書の工夫。
 - ・子どもに分かりやすい話し方の工夫。(口形、速さ、明瞭な発音)
 - ・伝わっているかどうかの細かな確認。

<アンケートから>

- ・あっという間の時間でした。園に来ていただいた時より、すごく耳に入りました。ありがとうございました。
- ・補聴器をつけている子がどれくらい聞こえているのか分からず、毎日どうなんだろうと感じていました。今回、なんとなく分かったような気がします。
- ・他の職員にも教えてあげたいです。



*内容を詳しくご覧になりたい方は、本校にお問い合わせ下さい。

TEL 0191-33-1600 担当：幼小学部・教諭 三浦 由紀子